

05 meguru house



ひとりで抱えていることを誰かに話したい、ただただ誰かと一緒にいたい、そんな10代・20代の女の子たちが気軽にホッとできる居場所です。おいしいご飯(無料)を食べてもいい、お喋りしてもいい、性・生の話もOK、それぞれ好きなように過ごしています。LINE、Instagram、Twitterもやってるよ!詳しくはMail、LINE、Instagram、Twitterで!

☎090-9909-2414

担当:久野 恵雅
日時:不定期(Instagram、Twitterで確認)
場所:中川区露橋町56-5 グローバル露橋209号
Mail:meguru_house@yahoo.co.jp



06 しゅうろうしえん SWEET HOME(Cafeスマイル)



いつでも来たい時に来たいよ、帰りたい時に帰りたいよ、帰ってね。来たときには、洗いや野菜の皮むき、お菓子作り、なんでもいからお手伝いしてほしいな。手伝って疲れたらいつでも休憩していいよ。気軽に「お手伝いしたい」って言ってね♪

☎052-439-6579

担当:廣瀬 のり子
日時:月~金 11:30~22:00 土・日 8:30~14:00
場所:千種区千種2-10-15 吹上ハイツ1F
Mail:nyanchu.punpui2810@docomo.ne.jp



07 サバナナプレーパーク (特定非営利活動法人こどもNPO)



0~120歳まで参加OK!ケガと弁当は自分持ち!プログラム提供などはなく、とにかく自由に遊ぶ場所。やりたいことをやればいところ。無理に外遊びや泥んこ遊びをすることはありません。時間・空間・仲間、まちづくり、そして遊ぶ権利の保障!そんな居場所の形。他のプレーパークについては緑児館まで!

☎052-848-7390

担当:山田 恭平
日時:原則第4日曜日 午前10時~午後4時
場所:森の里荘ふれあいステーションもりのさと
Mail:電話にてお問合せ



08 ゾネットぽれぽれ(わっぱの会)



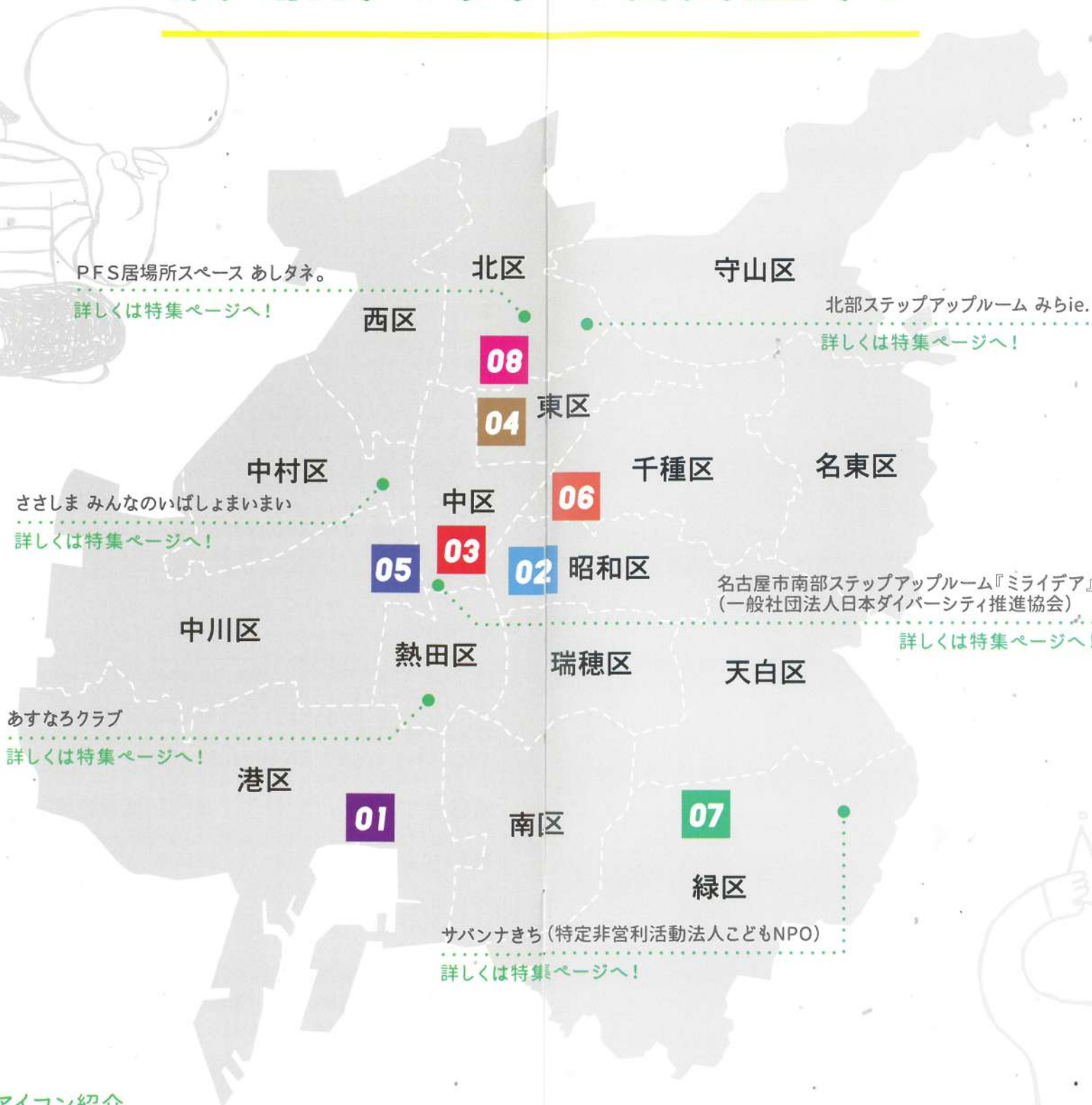
ゾネットぽれぽれは、自宅以外に過ごせる場所のない方の居場所としてオープンしました。障害があってもなくても、どんな事情でも、どこに住んでいても居場所を必要としている人は誰でも利用できます。利用は無料で出入りも自由、必要な手続きもありません。いつでも誰かしらはいるので気になったら立ち寄ってくださいね。

☎052-508-6021

担当:竹下 徹
日時:月~土 10:00~19:00
場所:北区大曽根4-17-23 イトーピア大曽根104
Mail:porepore@wappa-no-kai.jp



子ども・若者のための 居場所マップ<名古屋市>



アイコン紹介



女性専用



食事あり



就労支援



年齢問わず



子ども食堂



フリースクール



小学生対応



中学生対応



高校生対応



外遊び

01 10代のフリースペース パルス



中学生~18歳までの方を対象としたフリースペース。一階は喫茶店のお客さんやスタッフとの交流の場。二階はレク・学習・暇つぶしなどに自由に使えます。一人ひとりが過ごしやすく、リラックスできることを大切に運営しています。軽食も手作りしてお待ちしていますので、お気軽にお越しください。

☎090-9945-0857

担当:廣瀬 雅枝
日時:第2・第4金曜日 17:00~20:00
場所:港まちの社交場NUCO(築地駅駅から徒歩3分)
Mail:larotondacomoda@gmail.com



02 教西寺



「み〜や〜!」と住職を呼ぶ声がして、近所の子どもたちが一気に本堂へ駆け上がってきます。長期休みの初めには寺子屋を開いたり、「次はいつ来てもいいの?」という声から月イチお寺開放日『よっ寺あ』を設けています。互いを大切に思いながら関わる場の一つになったら、「お寺って気軽に行ってもいいんだ」と子どものうちから知ってもらえたら。そんな思いで開放しています。

☎052-731-3117

担当:三宅 千空
日時:毎月16日 10:00~17:00
場所:昭和区小桜町2-4
Mail:kyosaiji@mediacat.ne.jp



03 金山ごちゃまぜテラス (NPO法人ハッピーラボ)



スタッフを含め、自分に自信を持ってない人たちが自然と集まってくる和風古民家。一日のプログラムは無く、その日に来てくれた子どもたちやスタッフと、その日の気分でやる事を決め、楽しく過ごしています。「おばあちゃんの縁側」、大人になった時にふと思い出してくれるような安らぎのある居場所になれば♪

☎052-750-1765

担当:森 美智
日時:火・金 10:30~16:00
場所:中区金山2-4-2
Mail:kanayama@happy-labo.jp



04 フリースペース「KONOMACHI」



KONOMACHIは、この街(地元)・子のまち(子ども)・個のまち(個性)が混ざり合い、地域交流の場となることを願い開催しています。始動間もないスペースを、「誰でも誰でも気兼ねなく過ごせる場所」に育てていきたいと思っています。

☎052-936-3509

担当:伊藤 秀温
日時:火・金・第一土曜日(要問合せ)
場所:日蓮宗四高祖本覚寺で検索
Mail:nagoya-hongakuji@aichi.email.ne.jp



北部ステップアップルーム みらie.

(名古屋市若者自立支援ステップアップ事業)



大切にしていること

行動の背景にある
気持ちを汲み取る

対象者

自立に関する悩みをもつ概ね

15歳から39歳までの若者とその家族(名古屋市在住の方)

開所時間

毎週 月・火・水・金・土 10時～16時(祝日を除く)

費用

原則無料(ただし、一部実費を負担していただく場合があります)

場所

〒462-0816

名古屋市北区平安通1-5 ヴェロドリベルテ2階

連絡先

052-325-2890

管理責任者

今井 智貴(イマイ トモタカ)

みらie.を利用する若者には一人ひとり様々な背景があります。
これまでの傷つき体験から人との関わりを恐れ、『私は何もできない』『俺には価値がない』『僕は愛されない』といった強い自己否定を繰り返してしまう方も多くいます。

団らんの姿はまるできょうだいのような、
象徴的な一コマです



ある日、比較的新しい利用者(A)さんが来所しました。やはりたくさんのしんどい気持ちを抱えて、それでも精いっぱい気持ちをたずさえ、今日も来所してくれました。抱える病気の影響から、感情の浮き沈みが激しいAさんは、最近、気持ちのコントロールのために、新しい趣味を見つけようと頑張っていました。その日、Aさんは普段他の利用者が定期的に遊んでいた、あるテレビゲームに興味を示し、コントローラーを手に取りました。「ゲームなんて一度もやったことがない」「このボタン 何?」「どうしよう」とそんな表情を浮かべていると、別の利用者(B)さんがAさんの隣に座り、自然とルールや操作方法を丁寧に説明し始めました。Bさんは小学校高学年の時からほとんど学校に行かず、勉強や人と関わるのがなにより苦手でした。そのため自分から人に声をかけて、何かを教えるという姿は、それまであまり見ることはなく、とても印象的でした。

AさんとBさんがゲームをしていると自然と他の利用者も輪になって、まるで「家」の団らんのよう、温かい一枚が生まれました(掲載の写真はその時のもの)。

これはごく最近の物語です。みらie.では自立のために一歩踏み出そうと願う、すべての若者とそのご家族を応援します。ぜひ、お気軽にご来所ください。



大切にしていること

すべてを包み込む、子どもにとっての
安心安全の秘密基地

対象者

名古屋市内にお住いの ひとり親家庭の方

小学校5年生～中学校3年生

+きょうだいメンバー(きょうだいの小学校3、4年生の方)

+フレンドメンバー(小学校3年生～中学校3年生までのお友達)

※フレンドメンバーの場合ひとり親のご家庭でなくても登録が可能です。

開所時間

毎週 水曜日 17時～21時

※水曜日が祝日の週や夏休み期間は別の曜日に実施する場合があります。

費用

参加費無料

場所

北生涯学習センター

〒462-0841 名古屋市北区黒川本通2-16-3

連絡先

052-228-0280

サービス責任者

笹口 滉平(ササグチ コウヘイ)

あしたネ.では、歳の離れている利用者同士で仲良く遊んでいる姿がよく見られます。ケンカもすれば、仲直りもできる、友達とも家族とも違う、ここにしかない特別な関係性が魅力です。

ある日、公園へ遊びに行った時に小学生の利用者(A)さんがペットボトルを地面に立て、それを的にサッカーボールを当てる遊びを思いつきました。それを見ていた中学生の利用者たちは「ボールを遊具にバウンドさせれば当てやすそう」「的をよく見ないといけない」といったアドバイスをAさんに投げかけていました。Aさんはなかなかボールを当てることが出来ませんでしたが、周りの子のアドバイスを聞きながら楽しそうに遊んでいました。別の利用者はバドミントンを使って、シャトルを的に当てる遊びを思いつき、Aさんと一緒に遊んでいました。その遊びに参加していない子目的のそばに居る時には、「ボール蹴ると危ないよ」とAさんに「気をつけて」という優しい言葉が自然に出ていました。あしたネ.には皆が一体感をもって互いを受け入れ、高め合おうとするあたたかな雰囲気があるのだと感じられる場面でした。

花火を見たことがない子がいたので、
みんなで花火をしました!



あしたネ.では子どもたちの決めたことや伝えてくれたことについて全力で実現できるように心がけています。「もういいんじゃない?」「まだ明るいよ!」「早く、花火やたい!」なんて話しながらまだ少し明るさが残る19時に手持ち花火に点火。目に映るパチパチとした光の瞬きが印象的な姿です。一人ひとりにどんな背景があっても、コロナ禍だろうと、子どもたちが『また、あしたね!』と言える、そんな場所を私たちは創り続けます。

名古屋市南部ステップアップルーム『ミライデア』
(一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会)

☎052-684-6461

Mail:soudan@stepup-nanbu.nagoya



あなたらしい未来を、あなたのペースで歩みだすステップを応援しています。居場所での過ごす時間や場所・過ごし方は、それぞれの方が選択できるような工夫をしています。安心して通える場所であり続けること、わたしたちが一番大切にしていること。あなたらしいミライと一緒に探しましょう!開所時間は月曜～金曜の10時～16時、20代の若者たちがたくさん集まっています。

名古屋市若者自立支援 ステップアップ事業

名古屋市ではニートやひきこもり等自立に向けての悩みを有する若者が、自ら就労や進学等の自立に向けた取り組みができるよう、当事者同士が自宅以外に集まることのできる場所を設け、社会人として必要なコミュニケーション力や基礎知識を身につける等の支援や親をはじめとした家族に対する支援を進めています。本事業では、自立に向けての悩みを有する若者とその家族を対象として、電話相談をはじめ、継続的なカウンセリング、居場所の提供、各種支援プログラムやセミナーの実施、親支援サービスの保護者向け情報交換会など、一人ひとりの状況に応じた支援を実施しています。本事業では2団体が受託し、北区と中区でそれぞれ運営しています。

名古屋市ひとり親家庭の 子どもの居場所づくり事業

学校や地域など子どもが集団の中でふたり親家庭との違いを敏感に感じ取り孤立感を深めがちである一方、思春期における家族観の変化から家庭以外の居場所を求める傾向にあるひとり親家庭の子どもに対して、子ども同士が絆を深めることができる第3の居場所(サードプレイス)を提供し、参加した子どもが基本的な生活や学習の習慣及び協調性を身につけるとともに、自己肯定感の獲得や将来への自立意欲を高めることを目的として、本事業を実施しています。本事業では4団体が受託し、熱田区、北区、中村区、緑区でそれぞれ運営しています。運営団体によって特色があり、様々な工夫で子どもたちが安心して居る場所を提供しています。

ささしま みんなのいばしょまいまい

☎052-462-9325 (イトウ)

Mail:office@sasashima.info

日時:原則土曜日(月3回)10:00～14:00・月曜日(月1回)17:00～21:00



「今度のごはんは何にする?」「冷やし中華!」「餃子!」と、こども会議での一コマ。月イチご飯会でのメニューを話し合い、みんなで調理して食べる、子ども主体の居場所です。中村区のささしま事務所と中村コミセンで、体験の場と子どもが安心して過ごせたらと毎週開催しています。公園でサッカーや鬼ごっこ、絵画教室、季節の行事も大切にイベントを企画して楽しく過ごせる居場所を作っています。

サバンナきち(特定非営利活動法人こどもNPO)

☎052-848-7390 (ヤマダ)

Mail:office@kodomo-npo.or.jp

日時:原則毎週土曜日 13:00～17:00



名古屋市宮森の里荘の一角にある大高南コミュニティセンターで開催している活動です。現在は土曜日の昼間開催のため、小学生が参加しやすいです。特にプログラムや大きなイベントは設けず、何気ない日常をつくらうとしています。同会場では子ども食堂や学習支援も行っており、一人ひとりが遊びながら複合的に参加することが可能になっています。

あすなろクラブ

☎052-671-8639 (ワタナベ)

Mail:sounennji@gmail.com

日時:原則毎週水曜日 17:00～21:00



あたたかい灯りに照らされた「あすなろクラブ」の看板が、念願寺に立てかけられると居場所がスタート。すると、隣の炊事場からはいい匂いが...18時30分になると家庭的な料理が味わえるご飯タイムが始まります。食後はお楽しみチャレンジタイム!陶芸や茶道、外国の人とのお話しなど、経験を積んだり視野を広げる目的で実施しています。隣に誰かがいる、話を聞いてくれる、一緒に笑える、そんな安心できる居場所です。

SPECIAL THANKS

これまで支えてくれた全ての方へ...

今回ご協力いただいた各団体

- 一般社団法人 日本ダイバーシティ推進協会●一般社団法人 草の根ささえあいプロジェクト●教西寺●想念寺●本覚寺
- 特定非営利活動法人 こどもNPO●特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター●特定非営利活動法人 ハッピーラボ
- 特定非営利活動法人 わっぱの会●Cafe スマイル●meguru house●10代のフリースペース パルス

医療機関

- 愛知県精神医療センター●医療法人大高クリニック●医療法人資生会八事病院●医療法人福智会中・昭和障害者生活支援センター
- 医療法人陽幸会藤ヶ丘メンタルクリニック●医療法人和合会和合病院●大曽根メンタルクリニック●学校法人藤田学園藤田医科大学ばんだね病院
- 公益社団法人日本海員救済会名古屋救済会病院●独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター●独立行政法人国立病院機構東尾張病院
- 皆前クリニック●西山クリニック●平安通クリニック●星ヶ丘メンタルクリニック●南医療生活協同組合●八事の森メンタルクリニック
- やまだクリニック

会報誌制作協力

株式会社たなごころ(就労継続支援A型事業所)／株式会社ビジョンクリエイツ

BRIGHT FUTURE

居場所について考えてみた。

今回の広報誌は「子ども・若者のための居場所」をテーマに作成してみたが、共通の定義がある訳でもなく、それぞれの団体が大切にしているものを掲げて運営している。唯一共通しているのは「笑顔」で「安心」して過ごして欲しいという思いかもしれない。名古屋ではドン横キッズが話題に上がっているが、ここは準備された居場所ではない。だからこそ面白いし危険だとも言える。そもそも子どもや若者にとっての居場所は本来自然発生的に生まれてくるものだと思うが、どうしてそういう場が少なくなってきたのだろうか。地域や大人の力が弱化し、守られる立場の子ども達を支えきれなくなっているのも一因かもしれない。大人と子どもの間にはいつの時代も大きな壁がある。子どもが大人の都合に合わせるのではなく、大人が子どもを理解しようとしないう限り壁はいつまでも立ち塞がり決して越えることはできないだろう。そして支援者として考える「支援型の居場所」については、それぞれが考える地域や社会の課題と向き合いながら、多様な形で広がりを見せてくれたらと願う。そこに定義を当てはめるのは個人的に無意味だと感じることはあえて触れないでおこう。

一般社団法人 愛知PFS協会

代表理事 星野 智生

コラム

vol.2

関係機関の皆さまから聞いてみた PFSってどんなところ？

特定非営利活動法人 こどもNPO

山田恭平さん

Q1.貴団体について教えてください

設立から21年が経過する子どもの生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利を基盤において活動している団体です。特に子どもの社会参画を大切にしており、子ども一人ひとりの思いや声を社会に届けていくことがそれぞれの事業にちりばめられています。児童館や乳幼児の支援拠点、中高生の学習支援など、0～18歳までの子ども期全般に広く関わってきています。最近では「学校内居場所カフェ」の活動も開始し、行政による社会化・仕組み化を目指しています。

Q2.PFSと初めて関わった時のエピソードを教えてください

名古屋市長区の生活保護ケースワーカーとPFSさんについて話したのが初めてだったのですが、しんどい家庭をそれぞれが支えているような状態でしたね。姉は名古屋みらい高等学院で、妹は我々の学習支援で、母を区役所や障害者基幹支援センターが...という連携プレーです。そこまでやるか、というのが知った時の印象でしたね。私はこの業界に入ったばかりで、自分たちがやれることの限界はどこなのだろう、と思い始めていたころでした。そんな人たちがいるというだけで勇気づけられてしまって、私はこの業界から離れられなくなってしまったのかもかもしれません。うん、間違いない一因ですね。

Q3.PFSに対するメッセージ

勝手に仲間だと思っています。毎度、会うのが楽しみです。一緒に強くなっていきましょうね...そして活動から勉強させてください。もうすでにやっておられますが、これからも兎に角、一人ひとりにとって何が一番良いことなのかを考え、受益者ファーストの活動を続けていきましょう。社会に良い仕組みをつくりましょうね。



一般社団法人 草の根ささえあい プロジェクト

丹羽俊策さん

Q1.貴団体について教えてください

「誰もがありのままを認められる暮らしの中で、一人ひとりの小さな一歩を大切にしたい、やさしい社会にしたい」の理念のもとに、名古屋市在住の0～概ね39歳までの困りごとを抱えた方のワンストップ総合相談センター「名古屋市子ども・若者総合相談センター(名古屋市事業)」本人はそのままに、環境を合わせる就労支援「名古屋市若者・企業リンクサポート(名古屋市事業)」や、自主事業として、障害のある方の豊かな暮らしをささえる「障害福祉サービスでこぼこ」などを運営しています。すべての方が安心して居られる場所・活躍できる場所を見出せる社会となることを目指して活動しています。

Q2.PFSと初めて関わった時のエピソードを教えてください

私は、2018年9月PFSさんと草の根ささえあいプロジェクトのコンソーシアムで運営開始した。「名古屋市家庭訪問型相談支援事業(よりそい訪問サポートなど)」の立ち上げ時に、事務局リーダーとして関わりました。初めての打ち合わせの時、星野さんから特に挨拶もなく「笑 誰かが「星野さん、挨拶した?」と聞いて、されてないのに星野さんは「さっきしたよ」と笑。そんな出会い方でした。しかし、その後の打ち合わせで星野さんの若者との話し方や事業に対する視点、考え方に「とても真摯に支援の現場に向き合っていること」「長年の子どもたちとの関わりの積み重ねがあること」を感じ、カリスマ性を感じましたね。

Q3.PFSに対するメッセージ

PFSさんと草の根ささえあいプロジェクトは、これまで、時にはゆるやかに、時にはがっつりと連携してきました。これからお互いの地域にはなくてはならない大切な社会資源として連携していきたいです。主に関わっている子ども若者たちの対象の層は似ています。PFSさんのカラー、草の根のカラー、お互いのカラーを持ち寄って、多様なカラーで、子ども・若者たちを応援し続けていきましょう!「大切な存在です!」



一般社団法人 日本ダイバーシティ 推進協会

久保博揮さん

Q1.貴団体について教えてください

少子高齢化、人口減少などによる深刻な労働力減少の問題を解決するために、障がい者など就労困難者の労働環境の改善を図る活動を行うことで雇用を創出し、できるだけ多くの人が多様な価値を活かし、社会の中で存在対効果を上げられる環境を造ることによって「違いを価値に変える」ダイバーシティ社会を目指して活動しています。若者たちの居場所「ミライデア」で、働くことに悩む人たちの相談を受けたり、啓発としての企業研修などを行っています。

Q2.PFSと初めて関わった時のエピソードを教えてください

PFSさんの名前は知っていましたが、実際に関わるようになったのは、2017年度の「名古屋市若者自立支援ステップアップ事業」の運営開始からです(「PFSさんが北部、弊団体が南部を担当」)。同年度末のイベント「ミラモフェスタ」を一緒に企画したのが最初の協働作業でした。その時の印象としては、「若者に真摯に向き合うスタッフが多い」と感じました。弊団体とは、利用者・スタッフともに違いはありますが、それがお互いの補完関係になっていい交流・刺激となりました。イベント以降、協力体制が出来ました。

Q3.PFSに対するメッセージ

私のイメージとしてPFSさんは、「学校に行けない、人と関わるのが苦手、勉強がキライなど、悩みを持っている子どもたちの選択肢を多く提供している。」と感じています。これからは連携・協力しながら、お互いの強みや弱みを活かして、子ども・若者たちにとっての選択肢や社会資源をより豊かにしていきましょう。



10代のフリースペース パルス

廣瀬雅枝さん

Q1.貴団体について教えてください

港区築地口駅にある喫茶店NUCOを間借りして10代向けのフリースペースを運営しています。一階は喫茶店として営業しており、アートや音楽のイベントが行われる港まちならではの多様なお客さんとの交流の場となっています。二階は10代専用スペース。こちらはレクリエーション、学習、暇つぶしなどみんなの自由に使えます。簡単な食事やお菓子も用意しています。遊びに来てくれた10代の子どもたちが安心して過ごせる場所を目指しています。

Q2.PFSと初めて関わった時のエピソードを教えてください

「家族や友達だからこそ言えないことってあると思うんだけど、そういう人間関係の場って作れないかな?」と友人(現在パルスと一緒に運営している江崎)に話したところ「これからそういう仕事が始まりますよ。」と訪問支援員の仕事を紹介してもらったことがPFSとの出会いでした。福祉や教育の知識がない自分でしたが研修や連携調整員さんのサポートのおかげで、2018年から現在まで訪問支援員として子どもたちのお宅におじゃまする日々が続いています。そして昨年、居場所を始めると決めた際もたくさん相談に乗ってもらいました。いつもお世話になっています。

Q3.PFSに対するメッセージ

よりそい訪問サポートなどやの訪問支援員での活動が私たちの原点です。支援というと「立派な仕事ね。」なんて言われてしまうこともありますが、私たちはただただよりそうだけ。指導や助言は必要なく、いつも子どもたちが自分で変わるだけ。そのタイミングを待つだけ。PFSで教えてもらったことを忘れずに自分達の活動も続けていきたいと思っています。ぜひ、これからもたくさん訪問支援員さんを街に増やしていってほしいですね!



＼ご協力ありがとうございました。／